

令和5年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 聖徳園	代表者	三上 美知恵 理事長	法人・ 事業所 の特徴	敷地内には同法人が運営するグループホーム、こども園、母子生活支援施設、児童家庭支援センターがある。それぞれの事業所を利用している子どもや保護者と日常的に交流を行っており、利用者の楽しみや生きがいとなっている。施設では猫1匹飼っており、利用者の癒しになっている。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 あわら聖徳園	管理者	前川 典雅		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	4人	人	3人	1人	1人	人	人	人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<p>1 新規利用者の面談時に使用しているフェイスシートやアセスメントシートの項目の見直し。不足している項目があれば追加。情報共有の方法の見直し。→ ホワイトボードの活用の仕方、情報共有の意識を持つ方法、利用者個々人の必要な支援に対する勉強会を行うことで利用者に対する理解を深める。</p> <p>2 できないことを補う目標も大切だが、その人の強みを生かす目標を実践することが生きがいにつながる。→ スタッフ全員参加で強みを考える実現目標を実践する。ライフサポートプランの長期目標+α →これが実現できたら次はこれ、と常に次へつながる目標を考える。</p> <p>3 「10個以上」=その人の人生の延長線。利用者様ひとりひとりの生活歴シートを作成。「以前のこと」と「現在のこと」を聞き、半年に一回更新する。</p> <p>4 民生委員にあいさつにまわり、個人情報に触れない範囲で情報共</p>	<p>1 ホワイトボードや日誌の連絡事項欄を活用し、情報共有の意識を高めた。法令遵守による見直しをしていた為、フェイスシートやアセスメントシートまで手が回らなかった。</p> <p>2 日常業務が中心となり、目標に即した対応が十分ではない。目標の更新も滞っていた。</p> <p>3 運営指導があり、生活歴について十分に聞くことができなかった。「現在のこと(できていること)」に目が行きがちになっている。</p> <p>4 サポートマップ用ファイルはな</p>	<p>事業所評価も含めて全ての改善計画において言える事ですが、「～努める」とか「検討する」という表現は計画としては曖昧な表現であり極力使わないほうがよいと思います。具体的な手段・方法で何を為すべきかを計画としていくべきと考えます。</p>	<p>1. フェイスシートやアセスメントシートといった資料や記録を見る習慣をより高める。 ・初期の注意事項についての伝達・周知を行い、利用者に対する理解を深める。</p> <p>2. 各自が利用者本人の目標を確認し、強みを活かした実践に繋げる。 ・ライフサポートプランの長期目標+α →これが実現できたら次はこれ、と常に次へつながる目標を考える。</p> <p>3. 生活歴シートの項目を絞り、変化を把握する。項目も聞きやすい、答えやすいものにする。</p> <p>4. 民生委員が利用者の誰を担当しているかを把握するとともに関係を作る。</p> <p>5. 各自が情報の記載されている書類などを見て把握していく。</p>

	<p>有していく。施設での対応が難しい場合にお願ひできるような関係づくりをしていく。サポートマップを再度見直し、個人ファイルに綴るのではなく、サポートマップ専用のファイルを作り、定期的に更新・見直しを行う。</p> <p>5 活用できる地域資源やボランティアを調べたり探るなど、支援に必要な地域資源をより多く活用する。ミーティングの開催を定着させて記録にも詳細に確実に残すことで、抜けなく過去の情報もさかのぼれるようにする。</p> <p>6 準備・計画まではできているので感染症の状況を鑑みながら積極的に実行に移す。</p> <p>7 運営推進会議の内容の回覧をするようにする。いきいきサロン、民生委員とのかかわりを継続していく。</p> <p>8 職員会議でヒヤリハットをPDCAに繋げていく。そのためには、考えた対策に対することを評価し、分析と振り返りを重視していく。新規の方などのフェイスシート等の情報はプライバシーに注意しながら、職員間で情報共有できるようにする。</p> <p>9 内容によってはプライバシーになるため違う部屋へ移動するように配慮する。新規の方などの情報はパソコンの連絡事項の欄に閲覧するようにと伝達する。フェイスシートは人が見えるところに貼りださないように管理する。</p>	<p>い。民生委員との交流の機会があれば挨拶に行けている。サポートマップは毎月作成すめられている。</p> <p>5 よくできている。ミーティングは時間を決めて実施しており、開催が難しい場合でも記録などで情報共有している。地域資源は必要な人に必要な資源を活用出来ていると思う。</p> <p>6 緩和されたことで徐々に実行できている。今後もさらに積極的に実行していきたいと感じる。</p> <p>7 会議の内容は回覧出来ている。サロンも新しく人が増えてきている。民生委員との関わりも去年より継続出来ている。</p> <p>8 ヒヤリハットは分析や対策は行っている。</p> <p>9 PCの連絡事項を活用している。カルテを見る習慣をつけている。</p>		<p>・情報を記載する書類などを作成するスタッフは他の人が分かりやすい書類を作成する。</p> <p>6. 外部の方が立ち寄れる行事、お茶会、カラオケ大会などを計画する。</p> <p>7. 運営推進会議で施設の議題だけではなく、地域の困りごとを聞く。</p> <p>8. 外部講師を招いて研修を計画する。</p> <p>9. ・暖簾を付け、机の配置を気を付ける。可能な限りプライバシーが守られるようにする。</p> <p>・成年後見制度は必要な人に発信していく。</p>
--	--	--	--	--

B. 事業所の しつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エアコンなど、電気機器の異音がないか、常に意識し、問題があれば迅速に改善するよう努める。</li> <li>・利用される方にとって、心地よい環境を追求し、実施していく。</li> <li>・季節に応じて、花壇等が潤うよう考えていく。</li> <li>・今後も感染拡大防止に努め、換気等を徹底する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エアコンの温度調整は利用者に聞いてしている。</li> <li>・建物周辺の壊れがないとか点検している。</li> <li>・春と秋は花壇が出来ているが、夏場の異常気象から花などが傷んでしまった。</li> <li>・器具類の故障は、すぐに報告している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日中でも鍵はかけるべき。自由に出入りできる事業所でないと思ってもら方が信用されるのではないかと。</li> <li>・透明なアクリル板は、今後もあった方がいいと思う。</li> <li>・机の配置を変えるなどし、利便性や変化に対応していると感じている。</li> </ul>	室内環境を見てもらうにする。運営推進会議のながれで民生委員の方や包括の方や利用者家族に見学してもらおう。イベント(敬老会)に来てもらう。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用者が地域の中でイベントなどに参加できるよう支援していく。</li> <li>・いきいきサロンや広報活動を継続しながら、聖徳園の認知度があげられるよう周知し、ご利用者のみならず、ご近所等の方が気軽に訪ねてこられるようにしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のイベント等への参加は、今まではコロナが影響してほぼ出来なかったが、東温泉のお祭りのおみこしを見させてもらったり、少し、参加出来た。</li> <li>・いきいきサロンについては、継続して開催出来ている。その結果、新しく参加される方も出てきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍でも「はなみずき」の発行で、広報活動が継続されている。大変だと思いますが、続けてほしい。</li> <li>・いきいきサロンを継続しているのは素晴らしいと思う。</li> <li>・</li> </ul>	高齢者が集まる場所づくりをしていく。(カラオケ、イベントなど)。地域関係機関の連携を強化する(ボランティアなど)。
D. 地域に出向いて 本人の暮らしを 支える取組み	自宅で過ごすご利用者一人一人が取り巻く地域資源との関係の形成のため、暮らしのサポートマップの見直し・作成、必要に応じて包括、区長、民生委員、行政、交友関係等とも連携を構築し、安心して暮らしていけるようにしていく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サポートマップの見直しも現在進行形で、出来てきている。</li> <li>・一人暮らしの人が多く、平日頃から関係機関と連携を密にしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・暮らしのサポートマップの見直し・作成、必要に応じて包括、区長、民生委員、行政、交友関係等とも連携を構築していくことはとても重要であり優先して取り組むべき課題と考えます。これを実効性のある取り組みとしていくには、行政が主</li> </ul>	ご利用者が地域に出向けるよう支援する。(例えば、買い物などの外出機会時等)

			体となり福祉に携わるあらゆる関係者で構成する地域ネットワークの積極的な活動が大切と考えます。	
E. 運営推進会議を活かした取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の困難なケースに対して、問題点を明確にし、一つでも解決に向かえるよう検討していく。</li> <li>・ご利用者や地域で暮らす人々が暮らしやすくなれるように、地域での課題や地域で取り組みたいことをアピールする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員からも会議でとりあげてもらいたい議題をあげたりしている。ただ、困難なケースに対してもっと審議の時間を有するものがあり、完全解決という面では不十分なこともある。提案できることはしている。</li> <li>・地域での課題というものをもっと抽出してすべきであるが、そこが不足している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議で出た意見をどのように活用したか、事例検討後のフィードバックがあればいいなと思った。地域と一緒に取り組むということについては理解できます。地域の心配な方々について、運営会議で議論したことを踏まえ、誰がどのようにフォローしていくのか、如何に次のステップに繋げていくのかが大切だと思う。</li> </ul>	運営推進会議での事例を少なくして地域課題に対する提案に取り組む。(例)道路のひび。デマントタクシーの使い方など。議題に対してもらった意見をどのように活用したかを次回又は実地できた時の会議で報告する。
F. 事業所の防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・BCP（災害時の業務継続計画）マニュアルに関しては、今後、感染を交えてのマニュアルを作成していく。</li> <li>・実際の災害時を想定した訓練の継続はもちろん、事前の災害予測から、ご利用者や近隣住民が聖徳園に避難できるような体制を継続していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・BCP に関しては、作成できているが、実際の場面を常に想定した訓練等はこれからであり、取り組んでいきたい。</li> <li>・施設においては定期的に訓令しており、万が一に地域の方に開放できる体制になっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者一人住まいのケースが多く、緊急時の繋がりとして、安否確認をはじめ緊急時の対応は極めて重要だと思う。</li> <li>・地域の防災訓練は早期に実施されることが多く、事業所のスタッフは出勤前で参加が難しいのではないかな。</li> </ul>	災害の研修を幅広くではなく課題を1つにしぼってしっかりする。地域の防災訓練に参加する。地域の自治会に参加するようにする。(まつり、奉仕作業)